



写真で見る野草観察教室

話・折目庸雄さん 写真(花)・三浦 勇さん

巻末 人は緑の息吹と共に



私たちの身の周りで、何気なく生きる「野の草花」

それは、あまりにも身近すぎて

普段は見過ごしてしまうのだろう・・・

この町の自然には、実は多くの宝が生息し

人は時おり、それを犯し

また時として、その恵みや、美しさに感謝をする

失いつつある自然と、新たに生まれる自然

人は緑の息吹と共に

緑は人の思いを超えて

たくましくも、けなげに

「生きること」を教えてくれる・・・

富里に生息している植物は、現在1,588種類。

これは、県内でも2番目に多い数を誇るのです。失いつ

つある植物も確かにあります。しかし、全体としては、

その種類は増え続けている。

その理由というのは・・・



「人と緑の

共生する都市をめざして」

今回は、富里の街づくりのテ

マにちなみ、広報でシリーズ化し

ている「富里で見られる山野草」

の拡大版をお届けします。お話し、

町の植物と自然について、野草観

察教室の講師である、折目庸雄さ

んから。また、富里写真愛好会の

三浦 勇さんからは、現在、町で

見られる貴重な山野草の写真を、

紹介いただきました。

【上】ノコンギク（キク科シオン

属）「草の中に野菊咲くなり一里

塚」と、正岡子規に読まれている

花。日本の野菊の代表格。

【中】中央公民館主催事業の一つ

「野草観察教室」。参加者のみなさ

んが、野原を散策しながら植物と

自然の関わりについて学んでい

る。

【下】オカタツナミソウ（シソ科

タツナミソウ属）丘や雑木林のふ

ちなどに生える多年草。

※この二つの花は共に、富里で良

く見られるもの。身近な所にも、

目を凝らせば、そっと咲いてる可

憐な花があるのです。



カワラナデシコ
(ナデシコ科ナデシコ属)

「カワラナデシコ」もなかなか見られない花の一つ。町の開発が進むことで、失われる植物も当然あるでしょうし、土地の造成は、新たな生態系をつくることもある。人も植物もそれぞれに、生きる立場があるから、何事も一言ではかたづけられないけれど、山林を歩くと頻繁にゴミが捨てられているのはいただけないね。



折目庸雄さん
1928 (昭和3年) 生まれ

元々、理科の教師であった折目さんですが、町の植物の本格的調査を始めようとしたきっかけは、昭和56年にさかのぼります。村史を編さんの折り、今度は村の自然史をまとめようと、決心されたそうです。平成2年4月に予備調査を開始し、2年半を要し平成5年に『富里の植物・1330の花が咲き誇る町』を出版。現在、植物の調査を継続する傍ら、中央公民館主催事業の「野草観察教室」の講師としても活躍中です。



ヒレアサミ
(キク科ヒレアサミ属)

自然に自生する「ヒレアサミ」は、もう久しく見たことがない。「ノアサミ」は身近な花だね。アサミの仲間の中には、食用になるものや薬用として、それに毒草もあるけれど、その根には強壮薬や解薬、利尿薬としての効果もある。植物は本当に、人間の生活に大きく関わっているんですよ。



ノアサミ
(キク科アサミ属)

理由というのは、簡単に言えば、家庭に咲く花の種が野原に根付いたんですね。「なんだ」と思うかもしれないけれど、そんな当たり前のことが都市の自然を築いていくんです。でも、それだけじゃないんだ。この町の歴史的な背景としての「開拓」や「牧場」の存在が、外国やほかの街から飼料や家畜と共に新たな植物を運んで来て、この町に適応して帰化していったんだ。



ヒガンバナ
(ヒガンバナ科ヒガンバナ属)



キキョウソウ
(キキョウ科キキョウソウ属)



キンラン
(ラン科キンラン属)

赤・青・黄と咲く野の花の色は、
まるで、自然を彩る芸術作品のようだ

「富里にもまだ豊かな自然が残っている」という安堵感あんどを抱く反面「それがいつまで残されるのか」という不安もあります。しかし、植物をはじめ生き物すべてが持つ「生きる力」は、人間の想像を超えるくらい、たくましいものがあるようにも思います。
人は緑の息吹と共に、身近な自然へ関心を寄せることの大切さを、心から感じますね。



カザグルマ
(キンポウゲ科センニンソウ属)

5月の風に、直径10センチもある白い花が揺れていたのを見た感激は、今も忘れられない。現在も個体は生息しているけれど、見事な花を毎年咲かせるとは限らないですよ。この花も含めて「危急種」と呼ばれる植物は、そのあまりの美しさから、人間の乱獲によって、絶滅に近い状況を作っていることを、もっと知ってもらいたいな……